

知的財産戦略ビジョンの策定に向けた論点整理 (案)

2018. 3. 1

1. 将来の社会変化につながると考えられる現在の環境変化や兆候(1) 国内の価値観・社会状況における変化の兆候

- (例) 産業の主導権が「サプライサイド」から「ダイヤモンドサイド」へ
 消費者が求めるものの主流が「モノ」から「コト」(体験)、「サービス」へ
 組織から個人へ(働き方、起業と資金調達、等)
 金銭ではなく「いいね!」など承認や共感への欲求とその社会的利用の拡大
 「所有」に拘らない「シェア」の普及(シェアリングエコノミー等)
 世界に先駆け、寿命伸長と少子高齢化による人口減少・成熟社会へ
 GDPに代わる「豊かさ」の模索
 ライフデザインや働き方における価値観の多様化

(2) 新技術の進展と浸透

- (例) IoT、ビッグデータ、人工知能
 ブロックチェーン技術
 3Dプリンタとファブレス生産
 仮想現実(VR) / 拡張現実(AR)
 量子コンピューティング
 5G …等が組み合わされて活用

(技術が示す方向性)

- 「サイバー」の占める割合の増大や「リアル」と「サイバー」の結びつき強化
- データを媒介にした異業種同士や供給者と顧客の直接の結びつきの加速
- コンテンツやデータが距離、時間、費用、言語の制約なく共有可能に
- モノづくり、コンテンツ作成・発信、マネタイズが誰でも容易に(発案から実現までの距離・時間が短くなる)
- 様々な産業が技術集積のショーケース、システムプラットフォーム化
- 人間のコミュニケーションもAIを介在させることで効率化
- 仮想通貨の広がり、貨幣以外の価値尺度、流通手段、価値貯蔵機能の出現
- コンピューティングパワーが一定国に集中
- 技術による差別化の困難、プロダクトサイクルの短期化

(3) 国際関係における環境変化

- (例) 米国、中国等の存在感(人口、GDP、イノベーション創出力、軍事力等)
 Google, Apple, Amazon, Facebook, アリババなど国家に匹敵する規模の企業が台頭し、国際プラットフォームに(企業が資源再配分など国類似の役割・

責任を担う形、国家が企業を接収する形など複数の可能性)
地域主義的傾向（ヒトの流入制約など）
高齢化・成熟社会への流れなど課題の共通化
SDGs等これまでの資本主義ではない共存共栄的な国際共通目標の設定
日本の重層性、多様性に関する気づきの拡大
「精神性の高い」日本のマンガ・アニメへの評価
訪日外国人が急増し、外国人による日本の魅力発見・発信が盛んに

2. 現在の兆候から予測される将来の社会像～人が幸せになる社会とは～

(1) 主に人の将来像（生き方、働き方、価値観）

(人の生き方、働き方、価値観)

- 「生きている感」「生（なま）」であることが実感できるような、技術を使って豊かに生きることや人の能力を延長する技術へのニーズ
- 技術によって人の能力が強化され、多層的な生き方（多様な仕事を持つ）や再チャレンジが可能になるとともに、AIの進展による「超ヒマ社会」の生き方が課題に（※現在の観念での「労働」がなくなるという意味での「ヒマ」）
- 安心・安全など既に手に入れている価値を「失いたくない」という欲求

(新しい価値の源泉)

- デジタルのコストが下がることにより、リアル（非デジタル）の価値が向上（人同士の直接的な関係性・コミュニケーションや人の手による作品を含む）
- 我々が住む世界の多様性と個人の選択の自由度（選択肢の増加）を確保することが価値に（ミクロ及びマクロの選択肢の確保）
- 創意工夫する人同士の交流により、価値を新規創出（再発見や再編集を含む）
- リーダーのみならずファーストフォロワーが重要

(「幸せ」の在り方)

- 多様化する社会の中での自発的な帰属意識・関係の構築と幸せの評価関数の流動化
- 共感、信用、社会貢献など金銭ではない価値の実現
- 生きている実感の訴求と、自分の価値を証明してくれるものや足跡を残すことへの欲求
- 健康、感覚といった人の根源的な価値の確保

(2) 主に産業の将来像（イノベーション、競争力）

(未来の競争力)

- AIにより生産性が劇的に向上するとともに、データのメタ化（重要部分の抽出）が競争力の源泉に
- 新興経済大国への対抗戦略は、量での競争ではなくその他の部分で勝負
- 世界の中での日本の立ち位置を理解し、価値観に共感を得ていく重要性
- モノ・サービスを売るためには「夢×技術×（価値を含めた）デザイン」が必要に。アソビ（ゆとり）やアートの重要性。技術そのものよりもデザインやパッケージ化に価値が集中
- 信頼・イメージ戦略やブランディングが重要に
- 実用化、市場投入までのスピード感が重要になり、挑戦と失敗ができる環境・文化が不可欠に

(新しいビジネスの形)

- ビジネスモデルの前提が「独占」から「利用」に移行し、技術についても自己「保有」から他者が有するものへの「アクセス」という形に変化
- プラットフォームの形成と集積された情報の活用
- シェアリングエコノミーの広がり

(3) 主に社会の将来像（仕組み・ルール、国際関係）

(仕組み・ルール)

- 国、市場、会社等の境界が柔軟になり、従来の境界を前提とした仕組みやルールの多重化・重層化が起きるとともに、貨幣でない価値が生じる（金融政策の有効性が薄れる可能性）
- 巨大プラットフォーム型多国籍企業の社会責任の定義や、国と多国籍企業が円滑に協議する基盤システムが必要に。
- 技術によって全てが「アンド」化する中で同時に起こる独立（個人として活動できる仕組み）とアライアンス化。そのバランスが重要。

(教育・教育機関・人材育成)

- 世界で競争／共働できる人材育成の必要性、国境を越えたキャリア形成の一般化
- IT化により、知識の伝授から互学互習への教育の形態変容
- 大学は様々な人材が集積してアイデアの交換を行い、かつ人材が流動する生産性の高いプラットフォームとして機能
- 学びのモジュール化
- 少子高齢化の中で、次世代人材の重要性が高まる
- リアルの体験を通じた、健康、感覚、感動の教育の必要性

(知的財産の意味)

- 国の境が柔軟になり、国による知的財産権担保の価値が相対化
- オープンソースソフトウェア、クリエイティブ・コモンズなど知的資産の共有・共働の拡大
- データやAIを取り込むことで価値が上がっていくサービスプラットフォームにおけるデータ・知財のマネジメントの在り方

(4) 「未来」の相反性

- SNSなどのつながりからの解放への欲求や、利便性よりも探索、散策の有する価値への転換
- 国、会社、家族などの包摂力が弱まるときの帰属欲求の解消方法
- 科学や社会システムの発達・複雑化への疎外感・不安感と科学技術主導のイノベーションの是非
- イノベーションに伴う監視社会、生命操作、フェイクニュースと洗脳等の事象の捉え方・対応
- 人を模した自律的存在（ロボット）など「人」の概念が捉えなおされる可能性
- 技術やシステムを使いこなして富裕になる層とそうでない層の二極化や、選択できることを好まない一定数の存在（「カフェテリア方式」対「幕の内弁当方式」）
- 都市と田舎の分断、人材の偏在化
- 現在が、すべてが機械化された技術中心の世界になるか、技術を活用して自然と共存する世界になるかの選択分岐点

3. 将来における「価値」とそれを生む仕組みのデザイン

(1) 将来における「価値」の内容

「個の多様性」

- 多様性が種の存続を担保する
- 一人一人が志を持ち、自分がやりたいことをやれる
- 多様性と専門性の組み合わせから重要な価値が生じる

「リアル」

- 人間らしさや「自然化」
- サイバーに代替されることによって増加する体感、体得の価値
- プライバシーの確保
- 偽物ではないという信頼感
- 歴史や伝統

「新しいを創る（イノベーション）」

- 情報財を利活用した新しい価値の創出
- 融合、新結合の促進と昇華
- 集団、組織を越えた専門家のつながり
- 人材・情報・技術などのリソースをつなぎ合わせるデザイン力
- 既存のルールやタブーの超越
- 変化を実現するスピード

「社会の多様性」

- 非 GDP（経済指標以外）の価値（例：共感、信用、貢献等）
- 安全、安心など今ある価値を失わないこと
- 非中央、分散
- 地理的・人的な資源集中や格差の是正（再分配）

（2）我が国の新しいビジネスや国際競争力向上につながる「価値」の創出の仕組み

（多様な個性を生み出す仕組み）

- 自主性・好奇心・行動力を涵養し、チームを組み（リソースをつなぎ合わせ）、国内外に課題を定義し、それに対するアクションを取れる人材を育成
- 独創性を生み出す力や、複数の選択肢から選ぶ力が重要
- すべてがサイバー化する中で価値を持つリアルな体験の提供
- 多様性を受容するための感性、コミュニケーション力の育成
- 学びも娯楽ととらえたバーチャルコンテンツの開発
- 学びのモジュール化と選択・アクセスの拡大
- アイデアを結合し、協働するための大学のプラットフォーム化
- 記憶、体験等のコンテンツデータベースや、五感を体現できるアーカイブの構築

（多様な個人が活躍する環境整備）

- 一人の人間が持つ多様性・能力を引き出し、多数人の細分化された時間・アイデア・生産性を相対評価し、その需給をマッチングするプラットフォームを構築して協働という形で提供
- 多様な選択肢と選択の自由の確保
- 協働のため、個人が自由に移動できるパーソナルモビリティ、移動の高速化などの新交通システム
- 再チャレンジが可能な仕組みや環境整備
- ベーシックインカムを検討

(知識のプラットフォーム化)

- データ・AIを含む知的資産をアーカイブ・シェアし、それを利活用することで新たな価値を生み、知的資産の価値自体も向上させるシステム
- データ分析、メタ化による新しい価値源泉の発見
- 人のネットワーク、産業のサプライチェーンなどあらゆる場面においての情報を媒介とするエコシステムの構築
- SDGsの枠組みの中での融合促進と新たな価値の発信
- 「リアル」のアーカイブ化
- プラットフォームをバックアップする金融システムの整備

(多様な価値を内包する仕組み)

- 新たな幸福度指標 (GNH:Gross National Happiness)を開発し、それに対応した経済社会システムを高度化
- 多様な個人を包摂し、統合的に社会を運用する仕組み
- AIの導入によって、多様な選択肢を提示するシステムの構築
- 異質なもの・外部から入ってくるものとの共存・融合のため、デジタルネットワークを含めた外国人人材の受入れや、突然変異の可能性を高めるシステムを構築
(例：e-citizen)
- 地域ごとに保有する資産を活用し、ライフスタイルを提供。国・自治体はそのようなサービスを支えるための仕組みやコミュニティを保障。
- 様々なシステムの実験的導入、複数の選択肢の中での競争を促す仕組み